

ダイヤモンドカップ

3歳・ダート1800m M1
5月4日（祝・日）盛岡競馬場
昨年の優勝馬・フジユーゾーン



JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ／みちのく爽やか杯

第45回 ダイヤモンドカップ（M1） （カフェファラオ 賞）

盛岡競馬場／3歳・地方競馬東日本交流・ダート1800m

5月4日（日）第12競走 18:05 発走

ダイヤモンドカップは1981年に旧4歳の重賞として創設。一時期特別競走になり1997年にメイセイオペラが勝った時も特別競走でした。2000年に重賞に復帰、2006年には『ダービーウィーク』設定に伴い「岩手ダービーダイヤモンドカップ」に。2019年からは復活した東北優駿に「岩手ダービー」を譲ったものの、一貫してシーズン前半の3歳の重要な一戦として行われてきました。2024年、新しいダート三冠体系誕生に伴って東日本交流競走・東京ダービー指定競走となり、全国のダート三冠路線の中でのカギとなるレースに位置づけられています。

■ステラビアンカ(牡3 門別・田中淳司厩舎)



岩手への遠征はこれが2回目。ただし前回は水沢1600mの南部駒賞で盛岡への遠征はこれが初めて。初コースへの挑戦はどの馬にとっても課題でありチャレンジになるわけだが、この馬にとっては必ずしも懸念する面だけでは無さそう。というのも南部駒賞参戦時のコメントが「広いコースの方が良さそう」。実際レースでも4コーナーを大きく使って押し上げてくる姿を見せていた。盛岡のコースがこの馬の味方になる可能性は決して小さくない。

「終いを活かす形になると思いますから、広いコース・直線長いコースの方が合っていると思います。器用に動けないところがありますがもうひと伸びしてほしいですね（田中淳司調教師）」

■リケアカプチャーノ(牡3 水沢・菅原勲厩舎)



昨年7月に高知の新馬戦を圧勝で飾り、その後は8戦して5勝2着3回の成績を残してきた馬が岩手に移籍してきた。近年は全国区で戦えるレベルに達している高知の2歳・3歳戦線、今年もまた粒ぞろいの印象があるだけにあくまでも勝機を求めての移籍は当然のことと考えたい。岩手の同世代から見れば強力なライバルだが今回に関しては救世主と言えるかも。転入初戦としては楽な条件ではないがここで確かな手応えを掴んでおきたいところだ。

「こちらに来てからも元気いっぱい、順調だと感じます。距離は長くても大丈夫でしょう。左回りが初めてだがそれはやってみないと分からない部分。それさえなんともなければ力は出してくれると思っています（菅原勲調教師）」

■バリウィール(牡3 門別・小国博行厩舎)



前走のネクストスター北日本に続いての遠征は本馬にとっては3連続の遠征競馬。そんなハードなスケジュールをこなせるようになったのが今年のこの馬の強みだ。「2歳時には追い切りもできずにレースに出たこともあるくらい体質が弱かった」と調教師が振り返る馬が、今年は遠征を繰り返しつつビシビシと坂路を駆け上げられるほどに逞しくなった。このレースも、今のバリウィールの成長ぶりを見せつける舞台になるのかもしれない。

「前走からは1ヶ月ほどですが特に疲れもなく、追い切りの本数もしっかりこなせていて順調。距離や左回りも、ブルーバードCの感じからすれば問題ないでしょう（小国博行調教師）」

■ラヴェイ(牡3 盛岡・小西重征厩舎)



ネクストスター北日本は7着と苦杯を舐めたが地元勢の中では最先着、重賞勝ち馬の意地は見せてくれた。スタート直後にちょっと窮屈になり、コースもこの馬にとってはあまり良くないタフな馬場。距離も若干短かった・・・と力を出し切れなかった理由はいくつか思い浮かぶだけに前提条件が大きく変わる今回は違う走りを期待したいもの。盛岡での実戦経験は少ないが「当時とは別の馬」と小西師。そこは心配なさそうだ。

「前走後も変わりはなく順調。距離も問題無いのではないかな。去年盛岡で走った頃よりは馬も成長していますし、あの頃とはちょっと違った走りをしてくれるのでは（小西重征調教師）」

■ゴールドモーニン(牡3 川崎・岩本洋厩舎)



Photo/真鍋元

昨年9月の川崎・若武者賞で2着の実績があり地力は確か。ただなかなかそれが出し切れずにいるのだろう…というのは、着順の振れ幅、人気との差を見れば感じるし、この馬の力を引き出そうと工夫を続けてきた陣営コメントを見ても感じ取れる部分だ。とはいえそうして苦心してきたのもこの馬の素質を評価しているからこそ。近走を経て力を出せる組み合わせも見つかったようだ。その答え合わせの行方に注目だ。

「状態は変わりなく良い状態を保っているんですが、ちょっと乗り難いところがあってね。流れが向いた時とそうでない時の成績の差があります。上手く流れに乗れば良いのですが前走は流れが合わなかった。今回は百戦錬磨の鞍上に任せますよ（岩本洋調教師）」

■アサマ(牡3 門別・田中淳司厩舎)



Photo/ホッカイドウ競馬

昨年6月の新馬戦では2着だったが返す刀の2戦目で初勝利。そこで退けたのが後に名古屋スプリングCでリケアカプチーノを破ったページェント。そして4戦目に挑んだ門別ブリーダーズGJは離された4着だったとはいえ同期のトップクラスに食い下がっている。能力は重賞級だ。一頓挫あった事で2歳時の活躍はそこまで留まったが、この春初戦をきっちり勝って再進撃開始の準備は整った。ここはこの馬の今の力関係を計る一戦になる。

「昨夏に膝を軽く痛めて休養していました。前走を叩いてここに進むのは予定通りです。前走時は体重が増えていましたが成長分もありますし、輸送もあるから特に気にはしていません。左回りは初めてですがゆったりしたコースですから問題ないと考えています（田中淳司調教師）」

■バイアメ(牡3 盛岡・橘友和厩舎)



昨年の門別でのデビュー戦では勝ち馬から2秒1離された6着。秋に岩手に移ってから6着・4着。失礼ながらここからどこまで…？と思った11月、2着を6馬身突き放す圧勝で初勝利。まさに一変だった。その後は連勝こそ無いまでも手堅く戦い続けて3歳A級に到達。ついには今回重賞出走も果たす。この馬の武器であり活躍のキモは常に最速級の上がりを経り出す末脚にある。ここでもその武器を活かすのみだ。

「これまでも強いメンバーと当たってきていますが、それでもずっと上がり最速の脚を使ってきてくれている馬。この馬自身が納得する展開になれば必ず脚は使ってくれると思うので、このメンバーでもこの馬の走りを見せてくれると期待しています（橘友和調教師）」

■アルメールヴェント(牡3 川崎・河津裕昭厩舎)



Photo/真鍋元

地元川崎での新馬デビューからここまで、勝ち星こそ一つに留まっているが折に触れて後々重賞上位を占めるような相手と差の無い走りを見せてきている。持ち味であり武器である決め手も当初は引き出すのに苦心していたように見えたがここに来て手の内に入りつつあるようだ。河津師がここまでで一番良いレースに挙げたのが1月の川崎、初夢賞。道中は馬群の中で折り合い直線半ばで末脚を弾けさせた一戦。盛岡でその再現を狙う。

「前走からの間隔がちょっと詰まっているが馬は元気。スタミナはあるので長い脚を使える。だから距離も伸びるほど良いんじゃないかな。3コーナーくらいから気持ちよく脚を使ってくれば良いね。外枠もむしろ良かったと思います（河津裕昭調教師）」

■ミヤギヴォイジャー(牡3 水沢・菅原勲厩舎)



春初戦のスプリングC 3着から挑んだネクストスター北日本では10着に終わったが、続く前走では2着に巻き返して地元世代の中ではやはり上位の存在ということを示した。岩手所属馬ながら盛岡では未勝利。しかし今回はそれは大きなハンデとは思えず、それよりは1600mに苦手感がない手堅さ、安定感を評価したいもの。少なくとも地元勢の中では差は無いし、その中でさらに一歩でも前を目指す。

「前走後も順調にきています。距離も長くなって悪い感じではないですが、ここは相手が強いでしょうね（菅原勲調教師）」

■シーソーゲーム(牡3 大井・藤田輝信厩舎)



提供:TCK（東京シティ競馬）

昨年11月にJRA福島でデビュー、新馬勝ちを収めた後にこの春から大井に移籍。キャリア5戦は今回のメンバー中の最小タイになる。「来た当初は半信半疑で、マイルくらいで先行押し切る形が良いかとも思っていたんですが、レースぶりを見る限りそれにこだわらなくていいし距離も伸びて良さそう」と藤田師。このレースは東京ダービー指定競走。勝てばダービー出走も見てくるだけに当然好結果を狙って挑んでくると考えたい。

「来た当初は成長途上でもあって出走まで時間がかかりましたが、初戦を優秀な時計で強い勝ち方をしてくれました。まだ幼さが残っていますが素質ある馬。距離も伸びて良さそうですし、勝って東京ダービーに向かいたいですね（藤田輝信調教師）」

■ユウユウspreman(セン3 盛岡・飯田弘道厩舎)



ここまで16戦のキャリアは出走馬中最多。その16戦目の前走が初勝利になったのだが、重賞入着経験もある馬たちを一蹴した走りは二走前のやはり同様の走りを見せたことと併せてフロックとは言えないし、実際昨年7月の若鮎賞では5着、12月金杯でも掲示板圏内に僅差の7着だったのだからそれが本来のこの馬の力と見るべきだろう。500kgを超える馬格が走る力に転化されれば当然怖い存在になっていくはずだ。

「今回は1800mの距離を求めてここに挑戦します。ここで良いレースができるなら今後の地元での選択肢も広がりますし、相手は強力ですが調子の良さを活かしてできるだけ上を目指したいですね（飯田弘道調教師）」

文・写真／横川典視

写真提供・協力／高知県競馬組合・真鍋元・ホツカイドウ競馬・TCK（東京シティ競馬）※登場順